# Mizuho Bangkok Daily Market Report

## Dated of 2025/03/06

### Forex

| | Close | CHANGE |
|---|---|---|
| USD/THB | 33.61 | -0.08 |
| JPY/THB | 0.2259 | 0.0011 |
| USD/JPY | 148.88 | -0.91 |
| EUR/THB | 36.27 | 0.49 |
| EUR/USD | 1.0789 | 0.0163 |
| USD/CNH | 7.237 | -0.017 |
| SGD/THB | 25.25 | 0.09 |
| AUD/THB | 21.31 | 0.19 |
| USD/INR | 86.97 | -0.30 |
| USD Index | 104.28 | -1.47 |

### Bond

| | Close | CHANGE |
|---|---|---|
| 5Y (THB) | 1.974 | -0.009 |
| 10Y (THB) | 2.190 | -0.014 |
| 5Y (USD) | 4.079 | 0.033 |
| 10Y (USD) | 4.279 | 0.034 |

### Commodity

| | Close | CHANGE |
|---|---|---|
| GOLD | 2,926.0 | 5.4 |
| WTI (Oil) | 66.31 | -1.95 |
| Copper | 9,585.0 | 242.0 |

### Stock

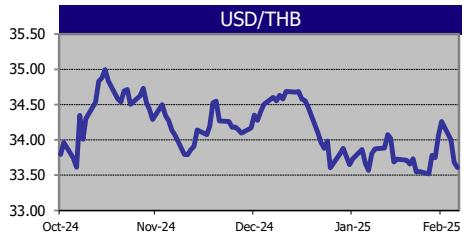
| | Close | CHANGE |
|---|---|---|
| SET (TH) | 1,206.96 | 29.32 |
| NIKKEI (JP) | 37,418.24 | 87.06 |
| DOW (US) | 43,006.59 | 485.60 |
| S&P500 (US) | 5,842.63 | 64.48 |
| SHCOMP (CN | 3,341.97 | 17.76 |
| DAX(GER) | 23,081.03 | 754.22 |

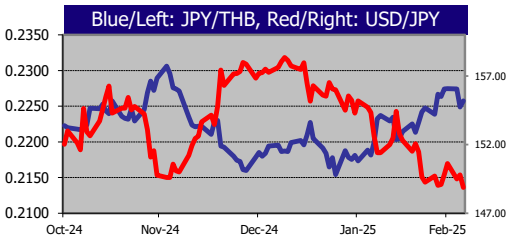
### Fund Flow (Overseas Investors)

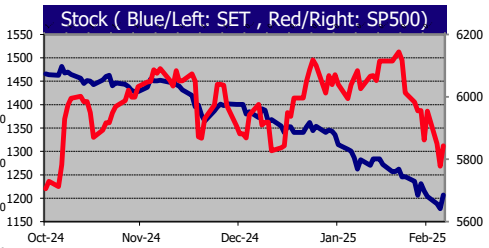
| | Close | CHANGE |
|---|---|---|
| Stock net flow | 1,379 | 2263.9 |
| Bond net flow | 4,536 | 6806.7 |

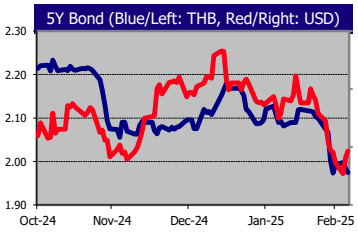
*compared with previous day

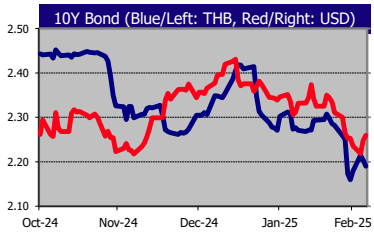
(Source: Bloomberg)

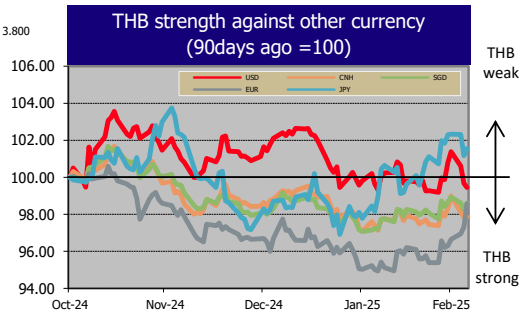


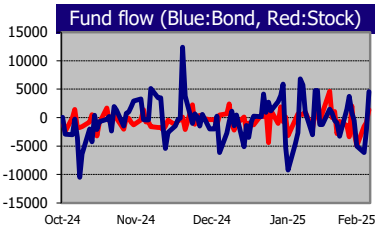



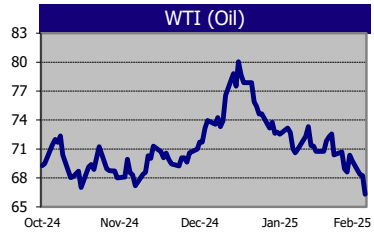




### Yesterday's market summary

●ドルバーツ

昨日のドルバーツは下落。33バーツ台半ば付近の水準で取引を開始したドルバーツは、前日に続き、関税懸念を背景に対ドルで堅調に推移。トランプ米大統領による施政方針演説が行われるも、特段のサプライズはなし。海外時間に入り、米2月ADP雇用統計が市場予想を下回ったことが確認されると、ドルバーツは下落幅を拡大させる展開に。その後米2月ISM非製造業景況指数は予想対比強い結果となるも、影響は限定的なものに留まり、終盤にかけても上値重く推移し、結局33.61レベルでクローズを迎えた。

●ドル円その他

昨日のドル円は下落。149円台後半の水準で取引を開始。内田日銀副総裁の講演、トランプ米大統領の演説は無難な通過となる中で、米金利の低下等を背景にドル円はじりじりと下落する展開に。海外時間、米2月ADP雇用統計が市場予想を下回ったことが確認された場面では、149円を割り込み、一時148円台半ばの水準まで下落した。以降は、米2月ISM非製造業景況指数の予想を上回る結果等を受けて下げ渋り、終盤にかけて149円ちょうどを挟んだ推移が続き、148.88レベルで引けた。

### Bangkok Dealer's Eye

2月中旬以降の円高地合いの背景の一つとして、日本の早期利上げに対する警戒感が挙げられる。その発端となったのは日銀政策委員による追加利上げに前向きな発言や、日本のGDPやCPIなどの良好な経済指標だった。その後は特段の材料がなかったため、実際のところ日銀が今後の利上げパスについてどう考えているかを測るうえで昨日の内田副総裁の講演は注目度が高かったものの、結局、時期やペースを示唆するような発言はなく、講演後市場では早期利上げに対する警戒感が和らぎ、一部では円買いポジションの手仕舞いフローも見られた。これに追随する動きがあるようだと、それは今後の円安要因の一つになる。今週発表された2月25日時点のIMM通貨先物によると、投機筋の円の買い持ち高は2016年10月以来の水準に積み上がっていたため、その反動は小さくはないだろう。目先の材料としては、本日のECB理事会、明日の米2月雇用統計がある。ECBは利下げが規定路線だが先々の見通しに変化があるかに注目。昨日は、ドイツが防衛力強化のため大胆な財政改革案を提示したことに市場が大きく反応し欧州債が暴落したことが話題となったが、こうした財政支出は欧州経済の押し上げに繋がるものでもあり、市場がリスクオン地合いに転ずる契機になりえるかもしれない。何をもって円の買い持ち高が解消されるか予測は難しい。当面は円相場の急激な変動リスクに注意しておきたい。（吉田）

The report is prepared for the sole purpose of information only.It is not an invitaion to trade.The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.